

令和6年度入学 一般選抜後期日程 数学 講評

第1問（必答問題）

【出題のねらい】

数学Ⅰと数学Ⅱから、問題を抽出し、基礎力・応用力を問うた。

【講評】

例年に比べ、全体的に正答率が低かった。問1は「609桁」という解答が多くみられた。結論する前の注意不足と思われる。教科書にある典型的な知識であるが、受験準備に時間をかけられた受験者と、そうでない受験者とで明暗が分かれた印象であった。

第2問（必答問題）

【出題のねらい】

2変数2次の連立方程式に対して、指定された解の状況についての適切な計算処理ができるかを問うた。

【講評】

(1)及び(2)は比較的正答率が高かった。(3)では、 $a=0$ の場合を認識していない解答が散見された。文字を含んだ式で除法を行うときはその式が「0か、0でないか」の場合分けを行うのは数式処理の基礎的な技術であるので、確実な定着を期待したい。

第3問（必答問題）

【出題のねらい】

平面上の曲線の、接線や囲まれた面積を求めることで、微分積分の基礎的な理解と計算力を問うた。

【講評】

(1)の接線を求める部分は、多くの受験者が正答できていた。求める文字の連立方程式の立式と、それらを正確に解けるよう、確実な基礎力の習得を求めたい。計算力の面では、定積分の途中での計算ミスが散見された。

第4問（選択問題）第4問～第6問から1問選択

【出題のねらい】

確率についての基本的な問題を問うた。問われている事象の数は7通りと多いが、明らかに空事象となるものが3つあり、分量的な負担はないと思われる。

【講評】

考えている事象が起こらないことを、「確率が存在しない」と表現する解答がみられた。確率が0であると述べることへの不理解があると思われる。

第5問（選択問題）第4問～第6問から1問選択

【出題のねらい】

数列の和についての応用力を問うた。特に、和が与えられたとき、元の数列を捉える際の基本的な注意点への理解を問うた。

【講評】

(1)の式変形は「部分分数分解」という技術だが、小問として誘導し、結果を利用して和を求める問いであった。さらに(2)と(3)では、数列の一般項の述べ方として、 $n=1$ と $n \geq 2$ の場合を分けて扱う必要があるが、対応できている受験者は多くなかった。

第6問（選択問題）第4問～第6問から1問選択

【出題のねらい】

教科書の演習問題レベルの問題により、統計的推測の分野への基礎的な理解を問うた。

【講評】

教科書レベルの典型的な問題であるが、正規分布表の使い方も問うた。大学入学後の統計学学習の基礎となるので、今後も、興味を持って取り組むことを期待したい。